

酪 農 試

酪農研究通信

第27号 2019年5月



分娩牛にとって快適な牛舎施設



地方独立行政法人

北海道立総合研究機構

農業研究本部 酪農試験場

北海道標津郡中標津町旭ヶ丘7番地

TEL(0153)72-2004 FAX(0153)73-5329

<巻頭言>

酪農関係試験場の名称変更と研究方針

酪農試験場長 原 仁

TPP11や日EU・EPAなど国際競争が厳しさを増し、乳製品などへの影響が懸念され、また、農家戸数の減少や高齢化が進行する中、本道酪農の競争力を強化していくためには、低コストで高品質な生乳生産が不可欠であり、自給飼料に立脚した草地酪農を確立することは喫緊の課題となっています。

道総研では、草地酪農研究の加速化を図るため、限られた人員の中で全道を効率的・機動的にカバーできる研究体制の見直しを行ってきました。

平成28年度は、全道の草地酪農研究の中核拠点に根釧農業試験場を位置づけ、畜産試験場、北見農業試験場、上川農業試験場天北支場などの関係場との適切な役割分担のもとで草地酪農に関わる研究体制を強化しました（担当研究部長を根釧農業試験場に新設）。

平成29年度は、根釧農業試験場の研究部を酪農研究部と草地研究部に改編し、上川農業試験場天北支場に根釧農業試験場の研究主幹3人を兼務配置して、根釧農業試験場との連携による草地酪農研究機能を強化しました。

平成30年度は、これらの研究内容の見直しを踏まえて、7月1日から根釧農業試験場は、全道の草地酪農研究の中核拠点として、研究内容と位置づけにふさわしい、全国的にもアピールできる呼称とするため、「酪農試験場」に改称しました。また、上川農業試験場天北支場は、酪農試験場と一体となって草地酪農研究を担うことから、上川農業試験場の支場から酪農試験場の支場とし、「酪農試験場天北支場」に変更しました。

この2つの試験場では、人と牛と環境にやさしい酪農をめざして、飼料環境分野は、良好な自給飼料基盤を支える牧草と飼料用とうもろこしの栽培・利用法や品種選定・選抜、酪農地帯の豊かな自然と調和した生産性の高い自給飼料畑の管理技術などに関わる研究を行います。乳牛飼養分野は、自給飼料に立脚した乳牛の飼養管理技術や繁殖管理技術、生産寿命の延長をめざした健康管理技術などに関わる研究を行います。地域技術分野は、持続的な酪農経営や地域農業の活性化などに関わる研究を行うとともに、地域とともに開発された新技術の導入や現地における実証研究を行います。

また、労働力の減少や高齢化を念頭に、衛星データや地理データなどを活用した栽培管理技術、各種センサやIoTなどを活用した乳牛飼養管理技術の開発実証を推進していきます。

酪農試験場において、平成30年度にとりまとめた研究成果および研究情報の要約と、試験場が主催した主な行事を掲載しました。酪農の生産・普及・行政の現場でご利用下さい。

第27号 目 次

平成30年度の研究成果

1. 乾乳期の乳牛はこうして飼おう！ 1
(乳牛の周産期疾病低減を目指した乾乳期飼養管理法)
2. 酪農場のデータを使って健康状態を改善する 3
(営農情報を利用した乳牛に周産期管理モニタリング法)
3. グラスシーダで播く時はこの量で！ 5
(オホーツク(北見内陸)および根釧地域における牧草播種機を利用した夏播種条件下でのチモシー主体草地安定造成のための播種量)
4. 気象予報を取り入れ早期にピタリ予測！飼料用とうもろこしの収穫適期 . . . 7
(メッシュ農業気象データを利用した飼料用とうもろこし収穫予測システム)
5. 飼料用とうもろこしへの加里施肥は「塩化加里」で低コスト安定生産 9
(飼料用とうもろこしに対する加里質肥料「塩化加里」の施用効果)

平成30年度の研究情報

6. 規模拡大すると放牧を続けるのは無理なのか？ 11
—多頭数飼養の放牧酪農場における技術的特徴—

- 平成30年度の主な行事 13
酪農試公開デー、第31回酪農フォーラム

詳しい情報や内容に関するお問い合わせは、各担当者にお寄せ下さい。この資料中の成果名は要約版です。お問い合わせ・検索にはカッコ書きした(課題名)をご利用下さい。これまでの研究成果については、インターネットで情報を提供しています。併せてご利用下さい。

◆酪農試験場 (<http://www.agri.hro.or.jp/konsen/konsen1.html>) から「研究成果」を選択

◆農業技術情報広場 (<http://www.hro.or.jp/list/agricultural/center/index.html>) から「研究成果」を選択